

勝山市総合行政審議会（第14期第7回） 結果概要

- 開催日時 平成29年2月6日（月） 午後7時～午後9時00分
- 開催場所 勝山市民会館3階 第1・2・4会議室
- 出席者等 出席委員：14名
説明者：市民生活部、健康福祉部、商工観光部、農林部、建設部、教育部
スポーツ局、消防本部
事務局：総務部未来創造課

1. 各グループ座長のあいさつ
2. 議題「第5次勝山市総合計画改定版（案）について」（グループごとの審議）

【Aグループ】 観光・まちづくり分野

第1章 すべての市民の力を合わせた広く開かれたまちづくり

2. 効率的、効果的な行財政の運営

（3）公平・適正な税政運営等による歳入の確保 について（8頁）

●座長

- ・内容についてこれでよいか。

●委員

- ・これでよい。

（5）行政組織の効率的運用 について（11頁）

●座長

- ・内容についてこれでよいか。

●委員

- ・これでよい。

（6）広域行政の推進 について（13頁）

●委員

- ・ビュークリンおくえつの耐用年数はどれくらいか。また将来的に建て替えの計画があるのか。

○説明者

- ・平成18年度から15年間運用することになっているが、耐久年数としてはそれ以上の期間使用可能である。それ以降の予定については未定である。

●座長

- ・内容についてこれでよいか。

●委員

- ・これでよい。

3. 多様な交流活動の推進

(1) 恐竜を活かしたまちづくり(恐竜渓谷ふくい勝山ジオパークの推進)について(14頁)

●座長

- ・内容についてこれでよいか。

●委員

- ・これでよい。

第2章 誰もが安心して暮らせる人にやさしいすこやかなまちづくり

5. 安定した医療、保健、年金制度の実現

(2) 安定した国民健康保険制度の運営 について(38頁)

●座長

- ・内容についてこれでよいか。

●委員

- ・これでよい。

6. 安全安心に暮らせるまちの実現

(4) 交通安全対策の推進 について(44頁)

●委員

- ・高齢者の運転免許証返納によって、市内コミュニティバスやタクシーの割引サービスが受けられるとのことだが、交通インフラがどのレベルまで整備されていれば、お年寄りが車に乗らなくても十分なサービスが提供されていると考えるか。

○説明者

- ・レベルの定義は難しい。高齢者が運転免許証を自主返納した場合、市内コミュニティバスの無料券を配布しており、県内タクシー協会では75歳以上の利用客に運賃の1割引を実施している。バスについては村部において便数を増やしてほしいという声があるが、3割から4割の便が乗客のいない空車状態で走行している現状から見て増便は難しい。平成27年10月から大幅にバス運行システムを改正し、予約運行することで効率を高めつつ経費も抑えるデマンド便を設定した。今後も利用者や運行事業者からの意見を伺い、修正を加えていくことで利便性を高めていきたい。

●座長

- ・内容についてこれでよいか。

●委員

- ・これでよい。

(6) 消費者保護の推進 について (45頁)

●委員

- ・施策指標について、相談件数ではなく被害件数は把握しているのか。

○説明者

- ・オレオレ詐欺等の被害額については警察の案件になるため市役所では把握が難しい。被害を未然に防ぐためのPRも重要であるため、施策指標を被害金額から相談件数に変更させていただいた。

●委員

- ・出前講座は年間何件実施しているのか。

○説明者

- ・出前講座は年間40回である。それ以外にキャンペーンを3回実施している。

●座長

- ・内容についてこれでよいか。

●委員

- ・これでよい。

第3章 にぎわいと産業の振興、連携による持続可能なまちづくり

4. 商工業の振興

(1) 活力ある商業経営の支援 について (55頁)

●委員

- ・施策指標の市内卸売業、小売業の事業所数について、卸売業を含めている意図は何か。

○説明者

- ・経済センサスと福井県商業統計から引用しているため、卸売業が入っている。

●委員

- ・店舗改修の補助金のこれまでの実績はどのくらいか。

○説明者

- ・平成27・28年の2カ年実施している「おもてなし商業エリア創出事業」の補助金については、市内中心部の飲食店を中心に、店舗改修へ17件の補助を行った。福井県の補助事業を勝山市が受け、そこに上乗せして補助している。観光の産業化に向け、短期に集中して事業を実施した。これ以外にも市内全域を対象とする商業施設改修補助事業は従前からあり、年に数件の申請がある。

●委員

- ・指標は年3件ずつ増えていくが、この内訳は小売店なのか。

○説明者

- ・内訳については、明確に決めていないが、コンビニエンスストアも対象になることから小売業が割合的に多くなると考えている。

●座長

- ・内容についてこれでよいか。

●委員

- ・これでよい。

(2) 地元企業への支援 について (56頁)

●座長

- ・内容についてこれでよいか。

●委員

- ・これでよい。

(3) 起業家の育成・支援 について (56頁)

●座長

- ・内容についてこれでよいか。

●委員

- ・これでよい。

(4) ソーシャルビジネスへの展開支援 について (57頁)

●委員

- ・この項目については具体的な数値目標がないのはなぜか。

○説明者

- ・この項目は今回新たに設定した分野である。高齢化社会を迎えている中で、健康増進や高齢者福祉の分野における新たなビジネス構築への支援をイメージしている。現時点ではまだ具体的な指標を設定できるほどの熟度に足りていないため、指標なしとなっている。ご理解いただきたい。

●委員

- ・例としてグループホーム等が近いのか。

○説明者

- ・福祉分野はこれまで商売につながらない分野であったが、イメージ的には福祉分野もいろいろなものが融合し新たなビジネスにつながっていくというもので、グループホームのようなものを想定してはいない。

●委員

- ・ビジネスへの展開という意味から民間の力を取り入れていくということか。

○説明者

- ・市が先導していく形ではなく、民間が福祉をビジネスとして捉え、いろんな業種が集まって

新たなビジネスを構築することに対し支援するイメージである。

●座長

- ・内容についてこれでよいか。

●委員

- ・これでよい。

(5) 企業立地・誘致の推進 について (57頁)

●委員

- ・県内の有効求人倍率が高いと聞くが、企業立地を推進しても企業側が求める人材が確保できなければ難しいと思うがどうか。

○説明者

- ・ご指摘のとおり、若い人が望む職種と市内にある企業とのミスマッチが起きている。U・Iターンの推進と仕事の確保をセットにして施策を構築し、長期的にミスマッチを減らしていきたいと考えている。

●委員

- ・企業側の努力も必要だと考えるが、そこに対する支援はないか。

○説明者

- ・現在は市内企業が工場の増改築を行う際に補助金を出しているが、その際に雇用を増やすことをお願いしてきた。しかし、若い人には福利厚生面の充実が重要な選択肢となることから、今後は方向を変え、ミスマッチを減らすために企業側に対し福利厚生に力を入れることをお願いしていく。

●座長

- ・内容についてこれでよいか。

●委員

- ・これでよい。

5. 観光の振興

(1) 観光資源の活用による経済の活性化 について (59頁)

●座長

- ・内容についてこれでよいか。

●委員

- ・これでよい。

(2) 環境整備による周遊性・滞在性の促進 について (61頁)

●委員

- ・観光客に宿泊していただくことが最も利益率が高い。観光消費額を増やすことを指標に設定しないのか。また、コンベンションを誘致することで宿泊客を増やす考えはないか。土日はそれなりに人が来ているが、平日に人を呼ぶためにもコンベンションは有効である。

○説明者

- ・ 昨年に勝山市観光まちづくり株式会社が設立され、今後、勝山の観光産業化を担っていくこととなる。観光消費額の指標については60頁に掲載しており確認願いたい。勝山市観光まちづくり株式会社は民間会社であることから、柔軟かつ迅速な対応が可能となり、行政にはないスピード感で仕事を進めていく。コンベンションの誘致について、今年の秋に茶道関連の団体が250人参加し、市内で宿泊する大会が予定されている。これからもコンベンションに力を入れていく。

●委員

- ・ 勝山市観光まちづくり株式会社が観光の産業化を担っていくということだが、補助金は市から出ているのか。

○説明者

- ・ 経営が軌道に乗るまではしばらく支援のための補助金を出していく。また、市が行っている観光事業を委託していくことにより、少しずつ力をつけてもらうよう支援していく考えである。

●委員

- ・ 勝山市の総生産に占める観光業の割合はどのくらいか。

○説明者

- ・ 観光消費額については把握しているが、勝山市の総生産がわからない。県全体の総生産額は把握できるが市単位のものはない。しかしながら、勝山市観光まちづくり株式会社を中心に、旧料亭花月楼・ジオターミナル・道の駅の3極が一体となって機能していくことで観光消費額は右肩上がりの施策指標としている。

●座長

- ・ 内容についてこれでよいか。

●委員

- ・ これでよい。

(3) 観光営業の強化による誘客の促進 について (62頁)

●委員

- ・ 重点項目に「首都圏からの誘客」とあるが、どのように誘客を図るのか。

○説明者

- ・ 北陸新幹線開通により首都圏からの観光客は増えてきている。昨年平泉寺で行ったアンケートでは観光客の4割が首都圏から訪れていた。平成27年10月にJR東日本が吉永小百合さんを起用した「大人の休日」キャンペーンCMを制作した際、平泉寺が取り上げられたことによる影響が大きかった。また、加賀市・あわら市・坂井市・永平寺町と連携し、東京のホテルニューオータニで食に関する観光キャンペーンを大々的に開催した。今後は東京駅周辺でのキャンペーンを実施し、首都圏からの誘客を図っていく予定である。

●委員

- ・ 年間の観光入込客数について内訳がわかるのか。また、施策指標は毎年人数が増えていく設

定だが、その想定はどうなっているのか。

○説明者

- ・観光動態調査結果が統計書「勝山市のすがた」に掲載されており、この中に平成27年度内訳も記載されている。大半は恐竜博物館の来客数である。今後は勝山市まちづくり株式会社においてツアーを構築し誘客を図っていくことから、施策指標を右肩上がりに設定している。細かい目標設定はしていないが、恐竜博物館・平泉寺・勝山左義長祭りの誘客が今後も伸びていくと予想している。

●座長

- ・内容についてこれでよいか。

●委員

- ・これでよい。

(4) インバウンド観光の推進 について (63頁)

●委員

- ・外国人観光客を増やすための具体的方策はどのようなものを考えているのか。

○説明者

- ・昨年5月に越前加賀インバウンド推進機構が立ち上がり、先ほどの5市町が参加している。台湾・香港・タイなどアジアを中心に誘客に努めている。台湾のテレビや雑誌に観光情報を提供し紹介されている。今月には山岸市長による台湾でのトップセールスを予定している。観光消費額を上げるために今後は外国人観光客の誘致にも力を入れていく。現状として台湾からの観光客が少しずつ増えている。

●委員

- ・台湾からスキージャムに観光客が来ているようだが、何か接点はあるのか。

○説明者

- ・スキージャムを経営する東急グループが台湾において出向宣伝をしている。台湾の方は親日家が多く、PRを強化することによりリピーターにつながっていくと期待している。

●委員

- ・インバウンド観光において勝山市の魅力は何か。特色を出していく必要があると思う。

○説明者

- ・スキージャムに来る台湾の観光客には雪が魅力であるが、それだけでは今後の観光客増加の要素として弱い。中国とは越前大仏で縁があり、かつ大きいものが好きとのことなので、恐竜博物館も含めて誘客に活用するなど勝山にしかないものを魅力として磨いていきたい。

●座長

- ・内容についてこれでよいか。

●委員

- ・これでよい。

(5) 広域観光の展開による認知度向上 について (64頁)

●委員

- ・年間の宿泊者数について1日の宿泊者数の最大値はいくつか。

○説明者

- ・スキージャムに200人、勝山ニューホテルに180人程度宿泊できる。市内全体の最大値は約500人と考えている。夏休みや勝山左義長祭りなど土日はこのキャパシティを軽く超えるため、やはり平日に観光客を増やす「平準化対策」は重要な課題だと考えている。また、大野市・あわら市等との周遊観光の観点から連携し、キャパシティの問題に対応していくことも考えている。

●座長

- ・内容についてこれでよいか。

●委員

- ・これでよい。

第4章 美しい環境や景観の中で便利で快適に暮らせるまちづくり

1. 効率的で人にやさしい都市基盤の実現

(5) 中心市街地の整備 について (69頁)

●委員

- ・まちなか整備として、本町通りが商店街として活気を取り戻すような取組みはないか。

○説明者

- ・中心市街地については補助金などによりきれいなまち並みの整備を進めてきた。これまではゆめおーれ勝山をまちなか誘客の拠点としてきたが、今年のゴールデンウィークには旧料亭花月楼がオープンするため、今後、この両施設を核として観光の産業化とまちなかに賑わいを取り戻す施策を進めていく。

●座長

- ・内容についてこれでよいか。

●委員

- ・これでよい。

2. 人にやさしい交通体系の確立

(1) 利用しやすいバス体系の整備と利用促進 について (70頁)

●委員

- ・重点項目に市民ニーズを取り込んだバス路線の見直しとあるが、ニーズ取込みの手法とはどのようなものなのか。

○説明者

- ・利用者から直接意見をいただく場合やバス運行事業者から意見をいただく場合もある。また、

市内各地区の区長会に出向き、意見をいただいている。様々な要望を加味して運行ルートやダイヤの見直しを行ってきた。平成27年10月にバス路線等の大きな改正を実施し、今後とも引き続き改正を図っていく。運行事業者には全てのバス停における乗降客数を記録してもらっている。また、乗客へのアンケートも実施していく中で、バス路線改正の参考としていく。

●委員

- ・バス事業運行の最大の問題点は何か。

○説明者

- ・利用客数の減少が最大の問題である。利用者が少ないことから運賃収入が増えないため、市が毎年7千万円を運行事業者に補てんしている。人口減少や若者の少なさから通学利用も減っており、利用客数を増やすことは困難である。この7千万円の範囲内で少ない利用者をいかに効率よく運ぶかが運行上のポイントである。

●委員

- ・同項目の文面の中に「車を運転できない交通弱者」という箇所があるが、「車の利用ができない交通弱者」という表現に変えた方がよい。

○説明者

- ・そのように修正させていただく。

(2) 乗りやすい鉄道の整備と利用促進 について (71頁)

●座長

- ・内容についてこれでよいか。

●委員

- ・これでよい。

3. 環境や景観に配慮したまちの実現

(1) 循環型社会の構築 について (72頁)

●座長

- ・内容についてこれでよいか。

●委員

- ・これでよい。

(2) 低炭素社会の構築 について (73頁)

●座長

- ・内容についてこれでよいか。

●委員

- ・これでよい。

(3) 環境保全・保護、美化活動の推進 について (74頁)

●座長

・内容についてこれでよいか。

●委員

・これでよい。

第5章 豊かな人間性とたくましさをもったひとを育むまちづくり

3. 生き生きとまなぶ生涯学習の推進

(3) 自然体験学習・ジオパーク学習の推進 について (91頁)

●座長

・内容についてこれでよいか。

●委員

・これでよい。

【Bグループ】 農林業・建設分野

第1章 すべての市民の力を合わせた広く開かれたまちづくり

1. 市民が主体となったまちづくり

(1) 市民の市政への参画促進 について (3頁)

●座長

- ・内容についてこれでよいか。

●委員

- ・これでよい。

3. 多様な交流活動の推進

(5) U・Iターンの推進 について (18頁)

●委員

- ・重点項目の「若い世代への市外への流出防止に向けた専門学校等誘致の検討」について、子どもの村小中学校の自由な校風を活かし、専門知識の習得可能な場として連携するなど、現在ある校舎等を活用した取組みを行っていただきたい。

○事務局

- ・子どもの村小中学校への入学希望から、勝山へ転入される方も多し。そこをきっかけに定住していただけるよう、協力・連携体制を整えていきたい。

●座長

- ・内容についてこれでよいか。

●委員

- ・これでよい。

第2章 誰もが安心して暮らせる人にやさしいすこやかなまちづくり

6. 安全安心に暮らせるまちの実現

(1) 消防体制の充実 について (40頁)

●委員

- ・指標について消防団員数については290人を維持するということか。団員数の減少を抑えるという意味であれば、減少数を指標として設定してはどうか。

○説明者

- ・総合計画の中の指標は、現状維持の数値目標はあるが、減少については設定していない。

●委員

- ・災害が発生した際に、即座に対応できる団員が1人でも多い方が良いが、団員で地元の方はどれくらいいるのか。

○説明者

- ・消防団員290名の内、210名は市内で勤務している。市内勤務者数は他の自治体と比べても多い方である。

○説明者

- ・市外在住者でも市内勤務であれば団員になることができる。団員確保のため、現在は市内事業所に理解を得て協力いただいている。

●座長

- ・引き続き頑張っていたきたい。内容についてこれでよいか。

●委員

- ・これでよい。

(2) 救急体制の充実 について (41頁)

●委員

- ・救急救命については初期対応が重要だと思うが、普通救命講習者の増加に向けて、講習会場の場所など更なる周知を図っていただきたい。

○説明者

- ・受講者については当初の想定より増加しており、今回の見直しにあたって数値を上方修正した。今後も市民への普及に努めていきたい。

●委員

- ・市の猟友会が大野市で講習を受けた場合は、この数値には反映されるのか。

○説明者

- ・数値は市内で受講したもののみである。補足であるが、現在は幼い頃からの救命に対する意識を持っていただくことを目的に、小中学生を対象に入門コースを設けて学校を回っている。

●座長

- ・内容についてこれでよいか。

●委員

- ・これでよい。

第3章 にぎわいと産業の振興、連携による持続可能なまちづくり

1. 農業の振興

(1) 集落を基盤に考える地域農業の振興 について (48頁)

●座長

- ・内容についてこれでよいか。

●委員

- ・これでよい。

(2) 循環型農業を基軸とした勝山型農業の推進 について (49頁)

●委員

- ・「基本的な考え方」の中に、6次産業化という言葉が入っているが、農商工を進めるという言葉を盛り込んでいただきたい。

○説明者

- ・対応したい。

●委員

- ・かつやま逸品開発のフォローアップの体制があると良いと思う。

○説明者

- ・参考にしたい。

●座長

- ・内容についてこれでよいか。

●委員

- ・これでよい。

(3) 経営効率化に資する生産基盤・農業用施設の適正な確保 について (51頁)

●座長

- ・内容についてこれでよいか。

●委員

- ・これでよい。

(4) 鳥獣害防止対策の推進 について (51頁)

●委員

- ・獣肉解体処理施設の設置検討の状況はどうか。

○説明者

- ・市町により温度差があり県が調整している。引き続き調査検討していく。

●座長

- ・内容についてこれでよいか。

●委員

- ・これでよい。

2. 林業の振興

(1) 継続な森林管理の推進 について (52頁)

●委員

- ・重点項目の中で地籍調査を削除したのはなぜか。

○説明者

- ・国の事業で私有林の明確化が進んでいるのでそちらにシフトした。

●座長

- ・内容についてこれでよいか。

●委員

- ・これでよい。

(2) 多様な活動主体による森林活用 について (53頁)

●座長

- ・内容についてこれでよいか。

●委員

- ・これでよい。

3. 内水面漁業の振興

(1) 水産資産資源の保護・活用 について (54頁)

●座長

- ・内容についてこれでよいか。

●委員

- ・これでよい。

第4章 美しい環境や景観の中で便利で快適に暮らせるまちづくり

1. 効率的で人にやさしい都市基盤の実現

(1) まとまりのある都市構成と土地利用の推進 について (66頁)

●委員

- ・コンパクトシティの考え方においては、公共交通機関の利便性を高めることが重要だが、どのような方針なのか。

○説明者

- ・高齢者の事故多発により運転免許証の自主返還が多い等の背景がある中で、公共交通機関の利便性の向上については、要望の声も多くある。市は周遊バスのデマンド式など、やり方を工夫しながら取り組んでいるが、十分な体制の構築にまでは至っていない。勝山にふさわしいコンパクトシティを目指していきたい。

○事務局

- ・公共交通機関については70頁～71頁にまとめているので、ご覧いただきたい。

●委員

- ・市民のニーズは高齢者会が進む中で変わっていくので、それに応じて対応していただきたい。

●座長

- ・内容についてこれでよいか。

●委員

- ・これでよい。

(2) 道路網の整備 について (66頁)

●委員

- ・中部縦貫道開通について、具体的な数字を示し市民の機運を高めてはどうか。

○説明者

- ・中部縦貫自動車道は国が管理している。

●座長

- ・内容についてこれでよいか。

●委員

- ・これでよい。

(3) 公園緑地の整備 について (67頁)

●座長

- ・内容についてこれでよいか。

●委員

- ・これでよい。

(4) 河川の整備 について (68頁)

●委員

- ・三谷川における10年に1度確率の雨量とはどの程度か。

○説明者

- ・1時間に48ミリである。

●委員

- ・勝山市における浸水のシミュレーションのようなのはあるのか。

○説明者

- ・河川ごとにハザードマップが作成されるが、1級河川である九頭竜川以外の河川については作成していない。三谷川においてもハザードマップは作成していない。

●委員

- ・ゲリラ豪雨があった場合は、ほとんどの地域が浸水してしまうのか。

○説明者

- ・1級河川の場合は、50年に1度の降雨に耐え得る堤防を作ることが決められているなど、河川の重要度によって何年確率の数値が設定されている。勝山は河岸段丘であることから、他の盆地や平地よりは浸水しにくい地形になっている。

●座長

- ・内容についてこれでよいか。

●委員

- ・これでよい。

(5) 中心市街地の整備 について (69頁)

●委員

- ・「散策路」と「遊歩道」の言葉の使い分けは何か。

○説明者

- ・散策路や遊歩道は観光客向けのものである。この項目は住民向けの意味合いなので、表現を修正したい。

●委員

- ・「基本的な考え方」を読むと定住化の促進が大きな目標の一つだと捉えられるが、数値指標を設定しないのか。

○説明者

- ・本項目は、勝山市全体の定住化というより、中心市街地の整備によるまちなかへの定住化が政策目標になっている。もし指標を設定するとしたら、街歩きができる道路延長があげられると思うが、これはほとんど完了している。まちなかの消雪設備の整備など他の指標が設定できるか再度検討したい。

●委員

- ・そうであれば、紛らわしいので「定住化の促進を図ります」という文言を削除してはどうか。

○説明者

- ・指標や表現を含め検討する。

●座長

- ・内容についてこれでよいか。

●委員

- ・これでよい。

3. 環境や景観に配慮したまちの実現

(4) 景観形成の推進 について (75頁)

●委員

- ・老朽危険空き家解体事業について、補助の条件などを検討すべきである。

●座長

- ・内容についてこれでよいか。

●委員

- ・これでよい。

4. 快適で雪に強い定住環境の実現

(1) 質の高い住環境の整備 について (76頁)

●委員

- ・市営住宅の集約については、居住者がいなくなり次第進めるのか。

○説明者

- ・おっしゃるとおりである。木造市営住宅については募集をしていないが、現在の入居者で高齢者の方は長年住んでいるので、なかなか退去ということにはならず、集約も進まない。

●委員

- ・質の高い住環境の整備という観点からすると、機器などの条件を揃えるなど、市営住宅や定住住宅の環境を整備した方が良いのではないか。

○説明者

- ・ご指摘のとおりである。

●座長

- ・内容についてこれでよいか。

●委員

- ・これでよい。

(2) 「勝山市総合克雪・利雪・新雪計画」の推進 について (78頁)

●座長

- ・内容についてこれでよいか。

●委員

- ・これでよい。

(3) 水の供給システムの整備 について (79頁)

●委員

- ・上水道のための水源地の環境保全はされているのか。

○説明者

- ・勝山市水源保護条例により、水源を汚すような施設や行為について禁止するなど定められている。

●座長

- ・内容についてこれでよいか。

●委員

- ・これでよい。

(4) 水の処理システムの整備 について (80頁)

●座長

- ・内容についてこれでよいか。

●委員

- ・これでよい。

第5章 豊かな人間性とたくましさをもったひとを育むまちづくり

5. 生き生きと輝くスポーツの振興

(2) 体育施設の整備・充実 について (96頁)

●委員

- ・バドミントンは前回の国体の副産物であるが、今回の国体においても幅広く他の分野の競技に強化し、世界で活躍する選手育成を目指していただきたい。

●座長

- ・内容についてこれでよいか。

●委員

- ・これでよい。

【Cグループ】 教育・福祉分野

第2章 誰もが安心して暮らせる人にやさしいすこやかなまちづくり

1. 健康のまち勝山の実現

(1) 健康づくり活動の推進 について (26頁)

●委員

- ・施策指標「健康寿命の延伸」について、男性と女性で上昇率が異なっているが、なにか理由はあるのか。

○説明者

- ・現状として、男性の方が女性より寿命が短いこともあり、より早めの対応をということでのような数値設定にしている。

●委員

- ・「健康チャレンジ事業」とは具体的にどういった活動なのかを示した方が良い。

○説明者

- ・注釈を設ける。

●座長

- ・内容についてこれでよいか。

●委員

- ・これでよい。

(2) 保健サービスの充実 について (27頁)

●委員

- ・定例相談実施による精神保健事業の充実について、こういった取組みは良いことだと思うが、実際に利用はあるのか。

○説明者

- ・心理カウンセラーにお願いし、ストレス相談会を実施している。毎月1回実施しており、3人程度の利用がある。

●座長

- ・内容についてこれでよいか。

●委員

- ・これでよい。

2. 安心して暮らせる長寿社会の実現

(1) 高齢者の生きがいと健康づくりへの支援 について (28頁)

●座長

- ・内容についてこれでよいか。

●委員

- ・これでよい。

(2) 高齢者介護体制の充実 について (29頁)

●座長

- ・内容についてこれでよいか。

●委員

- ・これでよい。

(3) 高齢者総合相談・支援の充実 について (30頁)

●座長

- ・内容についてこれでよいか。

●委員

- ・これでよい。

3. 福祉のまちづくりの実現

(1) 障がい者福祉の充実 について (31頁)

●座長

- ・内容についてこれでよいか。

●委員

- ・これでよい。

(2) 生活困窮者への支援 について (32頁)

●座長

- ・内容についてこれでよいか。

●委員

- ・これでよい。

4. 子育て支援日本一の実現

(1) 結婚支援策の充実 について (34頁)

●委員

- ・施策指標「市が支援したカップルの婚姻数」の値は妥当なのか。

○事務局

- ・かなり高い目標設定をしている。これについては勝山市地方創生総合戦略においても同様の目標設定をしているため、本指標の達成に向けてがんばりたいと考えている。

●委員

- ・結婚に向けたイベントを色々と実施していると思うが、それに付随するはずの重点項目の内容がさみしい気もする。目標達成に向かうプロセスを大切にしてほしい。目標は達成できな

くても「新たにこんなことをがんばった」と言えれば、とても意味のあることだと思う。

○説明者

・おっしゃるとおりである。実際に色々な企画に取り組んでいる。記載の仕方がやや簡潔すぎた。新たな取組みも取り入れており、もう少し具体的に記載し、がんばって取り組みたい。

●座長

・内容についてこれでよいか。

●委員

・これでよい。

(2) 出産支援体制の充実 について (35頁)

●委員

・出産支援の充実という小項目であるのに、施策指標「にこにこ妊婦奨励金制度の利用者数」が増加していかないのはさみしい。増加させていくように設定できないか。

○説明者

・少しでも数値を伸ばす方向で、施策指標の数値設定を再度検討する。

●座長

・内容についてこれでよいか。

●委員

・これでよい。

(3) 子育て支援策の充実 について (36頁)

●座長

・内容についてこれでよいか。

●委員

・これでよい。

5. 安定した医療、保険、年金制度の実現

(1) 地域医療体制等の充実 について (37頁)

●委員

・かかりつけ医の必要性を訴えているが、必要なのか。すぐに、高度な医療を受けなければ手遅れになってしまう恐れもあるのではないか。

○説明者

・医療へのかかり方が以前とは変わってきている。手遅れになる前に、普段から身近のかかりつけ医に体の状態を把握してもらい、的確に専門医を紹介いただくという流れである。

●座長

・内容についてこれでよいか。

●委員

・これでよい。

(2) 安定した国民健康保険制度の運営 について (38頁)

●座長

- ・内容についてこれでよいか。

●委員

- ・これでよい。

第5章 豊かな人間性とたくましさをもったひとを育むまちづくり

1. 望ましい教育の実現

(1) 教育環境の整備充実 について (83頁)

●委員

- ・ICTの活用について、現状を知りたい。

○説明者

- ・まず、タブレット端末の整備についてであるが、勝山市はやや遅れており、今後進めていきたいと考えている。電子黒板というものもあるが、非常に高価であり、各校に1台しか設置していない。代わりとして大型液晶テレビを導入している。また、デジタル教科書が普及しており、全教科に導入していきたい。なお、学校に設置しているパソコンは随時更新している。

●委員

- ・学校再編について、施策指標「小学校再編について」の内容は市役所の内部的なことを記載しているのか。

○説明者

- ・そのとおりである。中学校については、毎年の学級編成やクラブ数等を調査しており、事務レベルであり方を検討している。

●委員

- ・検討内容については、各地域に示しているのか。

○説明者

- ・毎年、市議会に対し、経年状況を報告している。小学校PTA等との語る会において、各地域にそういった内容を公表するよう指摘を受けており、広く市民に伝えていくためにも市のHPでの情報提供等を考えていきたい。中学校の方針が平成31年度に決定した後、公表を行っていこうと思っている。

●委員

- ・今の記載では、目標設定と言えない気もする。少しずつでも進捗していくような形を検討できないのか。内部での検討であってもよいので、それが進んでいくような目標設定をお願いしたい。難しい問題であることは承知している。

●委員

- ・大野市の再編は、市民への情報提供がないまま突然スタートした気がする。

●委員

- ・平成32年度にやっと中学校の再編方針の検討に入る（H29.2.6時点の資料）とのことだが、現時点で各学校の活動に無理はかかっているのか。生徒数もどんどん減っていく。

○説明者

- ・部活動や教員数の面で問題が出ているのは事実である。

●座長

- ・内容についてこれでよいか。

●委員

- ・これでよい。

（2）心豊かでたくましい児童・生徒を育てる学校教育の充実 について（85頁）

●座長

- ・内容についてこれでよいか。

●委員

- ・これでよい。

（3）「生きる力」を育む市民活動の展開 について（86頁）

●座長

- ・内容についてこれでよいか。

●委員

- ・これでよい。

2. 歴史遺産を活かしたまちづくりの実現

（1）国史跡白山平泉寺旧境内を中核にすえたまちづくり について（87頁）

●座長

- ・内容についてこれでよいか。

●委員

- ・これでよい。

（2）歴史遺産の保護・活用の推進 について（88頁）

●委員

- ・施策指標「国重要文化財旧木下家住宅修理工事の見学者数」の数値は平成28年度から減少するが、その理由を説明願う。

○説明者

- ・平成28年度から31年度の期間は改修の実施期間であり、工事の見学はできるものの人数は減少する。工事が完了する平成32年の以降に見学者数を伸ばしていきたい。

●座長

- ・内容についてこれでよいか。

●委員

- ・これでよい。

3. 生き生きと学ぶ生涯学習の推進

(1) 学習機会と施設の充実 について (89頁)

●委員

- ・市民に生涯学習の取組みを促すとのことだが、バスでの送迎サービスがあると参加者の増加につながるのではないかと聞いている。相互スイミングへのバス送迎サービスは高齢者にとっても評判が良いと聞いている。

○説明者

- ・北谷公民館は高齢者も多く交通の便が悪いことから、公民館学級の参加率向上に向け、バス借り上げの予算を確保している。全ての学習の機会に対し、すぐに対応することはできないが、今後検討していきたい。

●座長

- ・内容についてこれでよいか。

●委員

- ・これでよい。

(2) 生涯学習の推進に向けた人材の育成 について (23頁)

●委員

- ・「人材バンク」の説明を記載してほしい。

○説明者

- ・市内において、様々な技能を持った方々に講師としての登録をお願いしている。現在62名の方に登録いただき、地域の各団体等からの依頼に基づき、生涯学習の講師として派遣し、活躍いただいている。なお、講師への謝金については一律5,000円を市が支払う。注釈に詳細を記載する。

●委員

- ・今後、各地域でのコミュニティ活動活性化のためには、各公民館における学級といった生涯学習の機会の提供が不可欠になると思われる。施策指標「生涯学習人材バンク利用件数」の数値はもう少し上げてよいのではないかと聞いている。

○説明者

- ・おっしゃるとおりである。ただ、施策指標については、本事業をスタートしてまだ2年しか経過していないことから、今回は様子を見ることとしたい。

(3) 自然体験学習・ジオパーク学習の推進 について (91頁)

●座長

- ・内容についてこれでよいか。

●委員

- ・これでよい。

(4) 図書館機能の充実 について (93頁)

●委員

- ・ブックスタート事業はとてもよい取り組みだと思う。しっかり取り組んでほしい。

●座長

- ・内容についてこれでよいか。

●委員

- ・これでよい。

4. 豊かな心と感性を育む文化芸術の振興

(1) 伝統文化の保存・継承 について (94頁)

●座長

- ・内容についてこれでよいか。

●委員

- ・これでよい。

(2) 文化芸術活動の充実 について (94頁)

●座長

- ・内容についてこれでよいか。

●委員

- ・これでよい。

5. 生き活きと輝くスポーツの振興

(1) 競技スポーツと生涯スポーツの推進 について (95頁)

●委員

- ・施策指標「勝山恐竜クロカンマラソンへの参加者数(1開催あたり)」について目標が少し高過ぎないか。

○説明者

- ・確かに厳しく設定しているが、参加者数は年々増加しており、この設定でがんばりたい。

●座長

- ・内容についてこれでよいか。

●委員

- ・これでよい。

(2) 体育施設の整備 について (96頁)

●委員

- ・施策指標「勝山市体育館ジオアリーナの一般利用人数」について数値設定の根拠は何なのか。

○説明者

- ・現在の利用状況を基に算出しているが、確かに高めの目標設定となっている。ただし、ランニングコース・トレーニングルームともに朝から夜まで絶え間なく利用者がいる状況であり、トレーニング器具講習会も常に満員である。しっかりPRし、目標達成に努力したい。

●座長

- ・内容についてこれでよいか。

●委員

- ・これでよい。

(3) 平成30年国民体育大会の開催 について (97頁)

●座長

- ・内容についてこれでよいか。

●委員

- ・これでよい。